



12月1日は世界エイズデー 知っていますか HIVとエイズの違い

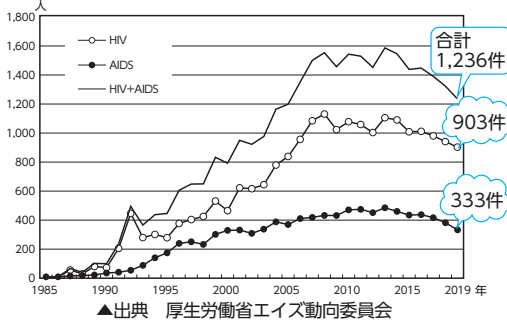
ID 1004526

問 保健予防課 ☎(626)1114

エイズは、HIVウイルスに感染することで、体を病気から守る機能(免疫)が破壊される病気です。HIV感染後、自覚症状がない時期が数年続き、平均5~10年でエイズを発症するといわれています。

2019年の1年間に新たに報告されたHIV感染者とエイズ患者は、合わせて1,236件です(右のグラフ参照)。

新規HIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移(2019年)



▲出典 厚生労働省エイズ動向委員会

世界エイズ

デーは、WHO(世界保健機関)が制定し、世界レベルでエイズのまん延防止と感染者・患者に対する差別や偏見の解消を目指しています。また、レッドリボンは、エイズに偏見を持っていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。この機会にエイズについて考えてみませんか。



▲レッドリボン

このようなことでは感染しません



せきやくしゃみ 蚊やノミなどに刺される 食器や箸を共用したり同じ皿の料理を食べる 握手や軽いキス
その他、お風呂やプール、つり革、洋式トイレなどでは感染しません。

病気をコントロールできる時代

現在の治療では、体内のHIVを完全に除去する方法はありませんが、エイズ発症前から適切な治療をすることで、症状の進行を抑えることができます。まず検査を受けてみるのが、最も重要です。

検査を受けてみようと思ったら

- 1 電話で検査日時を確認する。検査は要予約。
 - 2 当日、直接、会場へ。問診・採血をします。
 - 3 即日検査は当日、通常検査は約1週間後に結果が出ます。
- 検査について、詳しくは、45ページをご覧ください。



子どもも 高校生も 高齢者も みんなで交通事故のない 愉快なまちへ

ID 1003497

問 生活安心課 ☎(632)2264

12月11~31日に年末の交通安全市民総ぐるみ運動を実施します。

この機会に、改めて交通安全の意識を高め、交通事故を未然に防ぎましょう。

- 運動の重点事項 ①子供と高齢者の交通事故防止 ②安全運転の励行と飲酒運転等の根絶③夜間走行中の「原則ハイビーム」と「ライト4運動」の推進。
- ▼子どもの交通事故防止 保護者は、子どもから目を離さず、子どもが急な飛び出しなどをしないよう十分注意しましょう。
- ▼高齢ドライバーは身体機能の変化を確認 高齢ドライバーは、身体機能の変化を自覚し、時間と心に余裕を持って安全運転を心掛けましょう。
- ▼飲酒運転は、絶対にしない・させない 年末年始は、忘年会や新年会など飲酒の機会が増える時期です。飲酒運転は絶対にやめましょう。



▲グリーンレッドリボン

なお、市では、飲酒運転を根絶するために飲酒運転を「しない・させない」という決意を表す、グリーンレッドリボン運動を実施しています。

- ▼前照灯は早めに・原則ハイビーム 夕暮れ時の「見落とし」「発見の遅れ」を防止するため、車の前照灯を早期(午後4時)に点灯する「ライト4運動」を推進するとともに、夜間は、交通量の多い市街地などを除き、原則上向き(ハイビーム)で走行しましょう。

- 交通安全に関するポスターコンクール展
- ▼期間 12月14~18日。
- ▼会場 市役所1階市民ホール。
- ▼内容 市内の小学4~6年生を対象に、9月に行った「交通安全に関する啓発ポスターコンクール」の入賞作品22点を展示。



▲令和2年度 最優秀賞作品

「止まってくれない! 栃木県」からの脱却

信号機のない横断歩道での停止率が、依然として全国平均を下回っている本県。県警は「マイメロディ」とコラボし、一時停止を呼び掛けています。

一人ひとりの心掛けが交通事故の防止につながります。横断歩道では、必ず停止しましょう。

問 県警察本部 ☎(621)0110

